

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

水戸赤十字病院 広報誌

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3-12-48

TEL.029-221-5177(代表)

<http://www.mito.jrc.or.jp>

Vol. 39

100
Anniversary
since
1923
2023

虹の由来／架け橋となるような広報誌を目指します

虹



令和 6 年能登半島地震 水戸赤十字病院 救護派遣と活動の記録

＋日本赤十字社は、被災地への支援を続けていきます

令和6年能登半島地震：救護派遣と活動の記録

地域医療連携講演会を開催しました

水戸赤十字病院

石川県能登地方への派遣一覧

(令和6年2月7日時点)

令和6年1月6日(土)～9日(火)

DMAT(災害派遣医療チーム)

派遣▶輪島市

令和6年1月11日(木)～16日(火)

災害医療コーディネートチーム(CoT)

派遣▶珠洲市

令和6年1月23日(火)～28日(日)

常備救護班(+こころのケア要員2名)

派遣▶珠洲市

令和6年2月1日(木)～6日(火)

常備救護班

派遣▶珠洲市



捨田利災害・ 国際協力対策室長

DMAT(災害派遣医療チーム)
リーダーとして輪島市へ派遣

「印象深いのは、現地で様々な県名を目にしたこと。警察車両、電気工事車両、救急車……日本全国から集まっていた。これらすべての人が、支援のために今ここに集まっているんだな、と」

石川県出身の捨田利医師は、被災地での救護経験も多く、見つけた地でもそうでなくとも、胸の痛みや救護への意欲に違いはないと言います。それでも患者さんの懐かしい石川訛りを聞き、所縁ある土地の被災を実感しました。大変な状況ですが、全国から集う支援を垣間見て、心強く感じています。

「避難所で看護師が『具合悪い方いませんか』と聞くと、現地の方々から『具合良い方なんかいるわけないですよ』と返ってくる……体調だけでなく心のケアの必要性を感じた」

出口の見えない避難生活のストレスに晒される人々の言葉に、鈴木医師は医療だけでなく《聞くこと》の重要性を痛感しました。

「みんな我慢強く、ストレスをなかなか訴えない。だからこそ医師・看護師が来た時には、もっともっと言葉にして、つらい思いを出してほしいと思う」

鈴木救急科部長

災害医療コーディネートチーム
(CoT)リーダーとして珠洲市へ派遣





令和6年能登半島地震——

令和6年1月1日16時10分頃、
石川県能登地方にて
震度7の揺れが観測されました。
以降1月6日まで震度5以上の揺れが
繰り返し発生し、
家屋や道路の相次ぐ倒壊に
土砂災害も起こる中、
人々は避難生活を余儀なくされました。

水戸赤十字病院は1月6日、
石川県輪島市へ向け
DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣。
続いて災害医療コーディネイトチーム(CoT)、
常備救護班、こころのケア要員などを
派遣しています。

今もなお、救護活動は続いています。

▼全国から医療支援チームが派遣される中で、他チームとのコミュニケーションや役割分担は重要です。被災した方々を支えたいという同じ想いを抱え、各チームと協力し合い、精一杯の医療支援に努めました。



▼▶避難所のニーズは、日々変わっていきます。今どこで何を必要としているかを把握するため、情報収集は欠かせません。アセスメントを繰り返し、常に最新の需要を調べ供給に生かします。

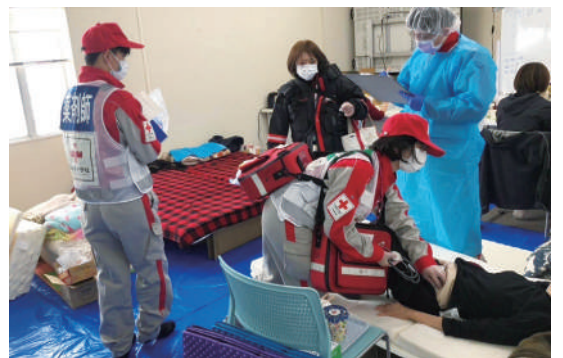


▼患者さんは腹痛や下痢、発熱症状、コロナやインフルエンザといった感染症も増えています。医師は各施設や避難所を回り、診療します。水と電気が止まり、限られた暖房器具で寒さを凌ぐ中、一刻も早い復旧が求められています。



派遣先の一つであった市立輪島病院にて、捨田利医師は感銘を受けたと言います。「輪島病院のスタッフ達は、限界に近い疲労の中、責任感を持って泊まり込みで働いていた。その姿に、医療者としてのプライドを感じた。皆、大変なところをプライドで頑張っている。彼らを休ませるために我々が行く。彼らが体を休めることができる体制を、今後ずっと作っていきたい」

日本赤十字社は、被災地への支援を続けていきます。



地域医療連携講演会を 開催しました。



外科 肝胆膵外科部長 小林 昭彦



外科 形成外科部長 馬本 直樹

令和6年1月31日(水)地域医療連携講演会を開催しました。

この講演会は、地域の開業医の先生方に当院の魅力を知らせていただきたく実施しています。

今回は、肝胆膵外科部長 小林医師による「当院における肝胆膵外科診療およびヘルニア診療の実際」と、形成外科部長 馬本医師による「当院における乳児血管腫の治療」という2つのテーマについて講演を行いました。

小林医師は肝胆膵の高難度な手術を得意とする一方、鼠径ヘルニアまで対応しています。また、胆石、悪性腫瘍の対応も可能です。特に膵臓(IPMN)のフォローにお困りの患者さまがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

馬本医師は乳児血管腫においてはすでに沢山のご紹介をいただいております。その他、形成外科全般、各種レーザーを用いたあざ治療を実施しています。美容に近い(あざ・しみ)ご紹介も多く、お気軽に患者さまをご紹介いただけますと幸いです。

今後も地域の先生方に当院の情報を発信できるよう努めてまいります。

産科の電話予約について

受診希望の妊婦さんからの電話予約を受け付けております。

☎ 029-221-5177(代)

受付時間：9:00～16:30(月～金)

※休診日(土・日・祝日など)を除きます。

「産科外来の
予約を希望」と
お伝えください。



「水戸日赤でお産」という選択肢

産婦人科医と経験豊富な助産師たちが、妊婦さんを一丸となってケアします。ハイリスクでないかたも、里帰り分娩のかたも、当院でのお産を歓迎します。



紹介状持参のお願い

次の場合は、「**紹介状**」が必要です。

- ・当院を初めて受診される場合
- ・当院での治療が終了し、再び来院され受診される場合
- ・患者さまが任意に診療を中止し、改めて受診される場合



お持ちでない方は

選定療養費 **7,700円**^(税込) が必要となります。

産科を受診される方は、選定療養費はかかりません。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。